

[早良演習林]3. 挿木および播種による苗木増殖試験

垣内, 重三郎
九州大学農学部附属演習林 : 助手

<https://doi.org/10.15017/1456179>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和38年度, pp.101-101, 1964. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :



3. 挿木および播種による苗木増殖試験

垣内重三郎

挿木による苗木養成は、林業上にも、園芸上にも利用されているにかかわらず、現在なお不明の点が多いが、発根活着にもっとも必要な条件は、挿木用土、環境、挿穂の状態等に、相互関連するものと考え、本年度は、フレーム内の用土としては、処女地の赤土の砂、ノとし、環境状態は、高さ2mの高日覆として、粗林内の自然の環境に近い状態とし、挿穂の状態は大径より穂先の小径までとし、穂木の切方は、鉄切として、もっとも普通に行われる挿木で、実用的で、労力を要しない、挿木法を採用した。

樹種としては、針葉樹25品種、広葉樹ノ8品種である。

なお今後、発根活着率を調べ、活着率の少ない樹種については、挿木の時期、穂木の切方、取方、母樹の年令、挿方、ヘテロアウキシン処理、黄化処理等の方法を、考えている。

播種としては、挿木床と同じフレーム内および、低日覆とし、亜熱帯の品種は露地に播種した。

樹種としては、針葉樹5品種、広葉樹ノ3品種である。